

～～第8722回～～

妙高山～火打山

～R1. 7. 20-22～

頸城山塊の妙高山と火打山を訪ねる。1日目は野尻湖まで。上信越道を小布施 SIC で降り、岩松院へ行く。北斎最晩年の作品となる「八方睨み鳳凰図」の描かれた大きな天井絵が有名だ。天井絵は竜が多く、鳳凰は珍しいとのこと。170年前のままとは思えないほど鮮やかな色彩を放っている。福島正則の霊廟もある。町中に戻り、北斎館に入る。ここには北斎が晩年に小布施で描いた肉筆画等が展示されている。竹風堂で名物の栗おこわを賞味し、町並を散策して野尻湖へ向かう。湖畔のナウマンゾウ博物館は子供達で賑やかだ。発掘現場は湖底で、水深の減る冬場に現在も発掘が続いている。今夜の宿、国民宿舎杉久保ハウスはすぐ近くだ。宿に着くと雨が降り出す。

2日目、朝食なしで5:00に宿を出る。コンビニで食料を調達し、笹ヶ峰登山口を目指す。杉野沢を過ぎると道は狭まり、舗装されているものの急カーブが連続する。駐車場で朝食を済ませ、保全協力金(1人500円)を納める。登山道は木道が敷かれ歩きやすい。黒沢までは緩やかな登りだが、十二曲を越すと岩が露出し登るのが大変になる。トレラン大会をやっているようでランナーが次々に走ってくる。高谷池ヒュッテがゴールのため、富士見平を左へ曲がっていく。我々は右手に行くため、富士見平を過ぎると嘘のように人がいなくなる。樹林帯を抜けると黒沢池を中心とした高層湿原になる。コバイケイソウ・ハクサンチドリ・ツマトリソウなどが咲き、気持ちよい風景が広がる。黒沢池ヒュッテで昼食をとり、余分な荷物をデポして、妙高山へ向かう。大倉乗越から見る妙高山は聳え立っている。長助池分岐まで崩壊地のある悪路を下る。分岐付近に2ヶ所残雪があるものの、アイゼンをつけるほどではない。樹林帯の中、岩が多く濡れて滑りやすい急登が続く、疲れの溜まった体に堪える。これを登って再び引き返すことを考え、萎える気持ちを奮い立たせる。1時間半の苦闘の末、妙高山北峰に立ち、南峰まで往復する。空は雲に覆われているものの、景色はよく、日本海、野尻湖、白馬岳、富士山や八ヶ岳まで見える。景色を満喫し、なんとか黒沢池ヒュッテに辿り着く。帰り道では小さな虫に苦しめられる。素泊まりは青いドーム屋根の隣の小屋だが、貸し切りで広々と使う。庭のテーブルで慰労会をする。

3日目、朝目を覚ますと、雨が激しく降っている。出発を30分遅らせ、小降りになってから小屋を出る。雨は降ったり止んだり、茶臼山を越えた高谷池ヒュッテで雨具を着ける。ヒュッテは建物を増設しており、今シーズン中には完成するそうだ。火打山が思ったより高く見える。高谷池から天狗の庭は池塘が広がり、木々の緑と残雪が美しく別天地だ。大柄なキヌガサソウ・サンカヨウが白い花を咲かせ、ハクサンコザクラが紅紫色の群落を広げている。雷鳥平から登りがキツくなるが、妙高山に比べれば楽勝だ。雨も上がり山々がよく見える。気持ちよく下山すると、高谷池ヒュッテで再び雨が降り出す。今度は本降りですみそうもない。後は下山するだけ、ここまで持ちこたえてくれ

ただけありがたい。富士見平を経て、ぬかるんだ道をひたすら下る。無事、笹ヶ峰登山口に着き、「苗名の湯」に寄って帰る。

参加者：5名（焼津1、藤枝4）

天気：①曇り ②曇り ③曇り後雨

地図：妙高山・湯川内

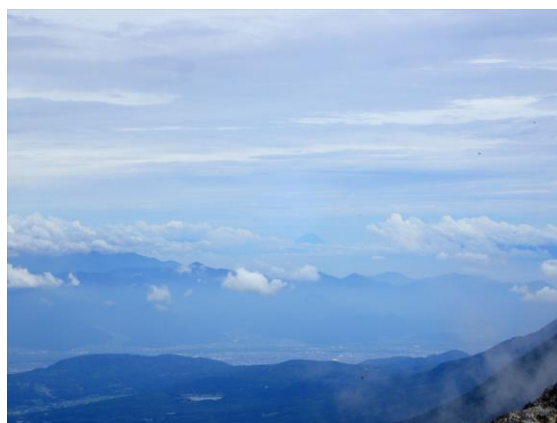
コースタイム：藤枝 530＝上信越道＝小布施（散策）930-1430＝野尻湖（泊）1610-500＝笹ヶ峰登山口 545-610…富士見平 910…黒沢池ヒュッテ 1040-1110…大倉乗越 1133…妙高山（北峰・南峰）1400-30…大倉乗越 1617…黒沢池ヒュッテ（泊）1640-530…高谷池ヒュッテ 630-45…火打山 840-905…高谷池ヒュッテ 1034-1105…富士見平 1153…笹ヶ峰登山口 1350-1400＝苗名の湯 1430-1520＝上信越道信濃町 IC＝藤枝

記録：藤枝支部 ゆ記



大倉乗越からの妙高山(越後富士)

妙高山から富士山を望む



天狗の庭に映る火打山